

今年度の登校日数もあとわずか。卒業や進級まで「あと〇日」という掲示が見られるようになり、「別れ」を意識し始める時期になります。残された一日一日の子どもとの触れ合いを大切にしながら、子どもたちが1年間の歩みを充実感をもって振り返られるようにしたいものです。その際、配慮を要する子どもに対する支援も大切に、温かい雰囲気の中で子ども一人一人が活躍できる環境づくりをしていきましょう。



<小学校>

残りわずかな朝の会、帰りの会の工夫

年度末は、子どもにとって「別れ」の時期であると同時に、「新年度からも頑張ろう」という意欲が高まる時期でもあります。

このような子どものために、一年間を振り返るきっかけとなる時間を設け、個人やクラスの成長を実感できる雰囲気をつくってみませんか。

- ◆今年度クラスで歌った曲を1曲ずつ歌う。
- ◆「私が今年度一番頑張ったこと」を一人ずつスピーチする。
- ◆全員で「クラスの十大ニュース」を投票・集計し、1つずつ発表する。
- ◆クラスの友だちへ一年間の感謝の気持ちを「ありがとうメッセージ」として伝え合う。
- ◆クラスで撮りためた写真を提示し、エピソードを語り合う。

朝や帰りの会の内容について、班やクラスで話し合い、子どもに企画・運営を任せてもよいのではないのでしょうか。

集中が持続するためのポイント

集中の持続に困難さがあり、活動が途中で終わってしまうKさんに次のようなポイントで支援しました。

ポイント1 座席
教師の指示が届きやすい前の方で、なおかつモデルとなる友だちがすぐ前にいる席にする。

ポイント2 時間の視覚化
タイムタイマーを使って時間を視覚化し、終わりまでの見通しがもてるようにする。

ポイント3 課題の小分け
課題を小分けにし、最初にすぐにできそうな分かりやすい目標を設定し、それがクリアできてから次の目標を示す。

このような支援を通して、最終的な目標まで集中して取り組めるようになりました。

<中学校>

短学活での1品スピーチで自分の成長や学級生活を振り返る

1年間（3年間）のまとめの時期になりました。短学活で、生徒が自分自身の成長や学級の仲間と共に過ごした時間を振り返るようなスピーチを行う時間を確保してはいかがでしょうか。その際、「1品」を用いるとスピーチがしやすくなり、聞く側も話し手の思いを感じやすくなるでしょう。

「1品」の例としては…

- ・思い出に残る場面が写っている写真やイラスト
- ・1年間（3年間）を表した漢字1文字や熟語
- ・授業や家庭学習のノート
- ・部活動や校外での活動で用いた道具

などが挙げられます。「1品」の写真を撮って教室に掲示すると、互いの成長や思いが形として残ります。そんな一人ひとりの成長や思いを大切にしながら終業式を迎えてみませんか。



気持ちをコントロールするためのポイント

衝動的に「うるせえ」と言ったり、ノートを破いたりするMさんに次のようなポイントで支援しました。

ポイント1 思う存分できる場所の確保
教室の隅に段ボールや裏紙を置き、思う存分破いたり落書きしたりできる時間と環境を用意する。

ポイント2 気持ちの温度計
「気持ちの温度計」を指さして今の気持ちを客観視することで、気持ちの高まりを抑えられるようにする。

ポイント3 対処方法の獲得
ポケットの中に手作りのお守りを入れ、気持ちが高まってきたら、それを握ることを約束する。

その結果、衝動的な言動がかなり少なくなりました。